「土木広報大賞 2019」応募用紙

<table>
<tr><td colspan="4">団体名：東京都市大学都市工学科 吉川研究室</td></tr>
<tr><td colspan="2">代表者氏名：吉川弘道</td><td colspan="2">所在地：東京都世田谷区玉堤 1-28-1</td></tr>
<tr><td rowspan="2">担当者情報</td><td>氏名：吉川弘道</td><td colspan="2">所属部署：東京都市大学都市工学科（2018 年度より名誉教授）</td></tr>
<tr><td>電話：080-3089-8891</td><td colspan="2">E-mail：hyoshika@tcu.ac.jp</td></tr>
<tr><td rowspan="2">応募部門<br>（複数選択可）</td><td>☑イベント部門</td><td>☑映像・Web メディア部門</td><td>☐アイテム部門</td></tr>
<tr><td>☐教育・教材部門</td><td>☐商業広告部門</td><td>☑企画部門</td></tr>
<tr><td colspan="3">土木広報活動または作品名：Discover Doboku -日本の土木再発見-</td><td>前回の応募：☐有</td></tr>
</table>

広報活動または作品の概要

本広報活動は、Phase1, Phase2, Phase3 にて大別され、以下に示す通りである。

➢ **Phase1：WEB サイト「土木ウォッチング」の構築とコンテンツの拡大【ストック Phase】**

画像を主体とする投稿ストック型サイト「土木ウォッチング」を開設し、下記に概要を示す。

・多くの事業体（世界銀行、新聞社、土木学会など学会協会、電源開発、鉄道・運輸機構など 50 団体）と個人からの直接投稿/資料提供を受け、応募時点にて 945 件のコンテンツを有する。これらは、明治/大正/昭和/平成に供用された施設であり、副題が示すように‘インフラ大図鑑’をめざし、今後 100 年間維持したい。

・画像を中心とするコンテンツは、3 分類（施設 Infrastructure の分類、構造物 Civil Engineering Structure の分類、特別企画 Special Edition）にて格納される。合計 22 分類のうち、多くは、2～4 つに配置される。

・例えば、横浜ベイブリッジは道路施設（首都高）と橋梁（斜張橋）として分類され、特別企画のうち‘インフラツーリズム’や‘土木夜景’として分類されることもある（今世紀末には 100 歳を迎え、土木遺産に入る）。

・各コンテンツには、「いいね！シェア機能」（facebook が提供する無償アプリ）を具備し、各コンテンツの人気度が分かる。現時点にて、いいね！4000 人超えの事例を付属資料に示した。

**画像 1 ：土木ウォッチングのトップページ。
右覧に施設の分類 7、構造物の分類 6、特別企画 9 の合計 22 分類となり、投稿者が選定する。

**画像 2：コンテンツの事例：
タイトル、写真、説明文、選定分類で構成される。
必要に応じて、リンク先も貼ることができる。

➢ **Phase 2：facebook ページ「Discover Doboku」による土木施設の紹介【情報発信 Phase】**

・いわゆる、‘シェア機能’を活用し、主として、土木ウォッチングから人気コンテンツや重要構造物を紹介している。過去 4 年間、週数回のペースにて実践し、7425 人のフォロワーを擁する。

・加えて、依田正広氏（橋梁写真家）、土木写真部殿には直接投稿をお願いし、また、活動度の高い土木サイト（土木写真部、みんなのどぼく、橋の魅力発信プロジェクト、かわいい土木、国土文化研究所舟めぐり etc.）のコンテンツを、不定期ではあるがシェアしている。

・時期に応じて、‘いいね!ベスト 20’、‘全国津々浦々:人道橋・歩道橋特集’、‘特集:GW インフラツーリズム’などのミニ特集を組み、1～2 週間にて集中的に紹介している。

・なお、兵庫県南部地震の被災と復旧、目で見る構造力学、FEM の美学、など、これまで土木工学の基本的課題を SNS 上で発信することを試みている。

**画像 3：Facebook ページ Discover Doboku 応募時点にて、いいね!:：7306 人、フォロワー：7425 人、を擁す。

**画像 4:シェア機能による沖縄阿嘉大橋（GW インフラツーリズム特集）の紹介。この場合、3477 人にリーチし、301 人のいいね！があった。

➢ **Phase 3: イベント実施・執筆活動・取材 etc.【水平展開】**

☆★ 【大手 Web メディアでの連載講座】Yahoo! ニュース: 土木が原風景となる時 (1)～(7)

・連載期間：2018 年 12 月～2019 年 3 月、7 回を執筆/公開

・掲載サイト：Yahoo！ニュース The PAGE

第 4 話：https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20190119-00010002-wordleaf-cul

第 6 話： https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20190223-00010002-wordleaf-cul

☆★ 【依頼投稿：執筆】月刊誌 橋梁と基礎 Bridge and Foundation

・発刊：2018 年 12 月 1 日

・タイトル：特集：地域と橋 魅せる橋梁講座 –みんなで楽しもう！インフラツーリズム-

・雑誌名：橋梁と基礎 VOL.52 2018 年 12 月号 (建設図書)

☆★ 【イベント主催】次世代のための空港講座（Interdisciplinary Workshop on Future Airport）

・開催日：2018 年 5 月 10 日、

・会場：羽田空港 ANA 格納庫、国内線第 2 旅客ターミナルビル

・プログラム：空港整備事業計画、格納庫建設概要＋施設見学、旅客ターミナルビル増改築

・参加：横浜国立大学、首都大学東京、日本大学など 18 大学 19 名

・後援：ANA 施設部、梓設計、大成建設、清水建設

・開催報告： https://www.doboku-watching.com/index.php?kijiId=981

・専用 facebook ページ： https://www.facebook.com/FutureAirport/?tn-str=k*F

☆★ 【イベント主催】
・みんなで楽しもう！インフラツーリズム 2017*2018　-ポスターセッション＆ワークショップ-
・開催日：2017 年 11 月 2 日、および 2018 年 11 月 2 日
・会　場：東京都市大学 二子玉川夢キャンパス
・主催/インフラツーリズム推進会議（議長 吉川弘道)、・後援 国土交通省, JTB 関東, 土木学会
・協力：東京都市大学　せたがや e カレッジ
2018 年開催：https://www.doboku-watching.com/index.php?Kiji_Detail&kijiId=1080
2017 年開催：https://www.doboku-watching.com/index.php?Kiji_Detail&kijiId=934
☆★【連載記事：監修】
・発刊：2017 年 1 月～12 月　#1～#12 (6 回 12 話)
・連載タイトル：Doboku de Date -土木はデートに最適である-
・雑誌名：月刊 土木技術（理工図書）
☆★ 【受託事業】土木施設情報発信等推進事業：Love Doboku Kanagawa
・神奈川県 大学発･政策提案制度(2017 年度実施)、実施期間：2017 年 4 月～2018 年 3 月
・実施団体：東京都市大学*都市工学科＆男女共同参画室
・専用サイト：https://www.doboku-watching.com/lovedoboku/
・成果事例：
宮ケ瀬ダム infographics：https://www.doboku-watching.com/lovedoboku/sdetail.php?pageID=327
撮り土木講座：https://www.doboku-watching.com/lovedoboku/sdetail.php?pageID=289
☆★　【依頼投稿：執筆】月刊建設 17-05
・発刊：2017 年 5 月 24 日
・執筆内容：‘魅せる土木’の工夫と効果的な情報発信による広報プロモーション
・当該 5 月号の特集：地域活性化の推進 -魅力ある地域づくりに向けて-
・雑誌名：月刊建設 2017 年 5 月号(全日本建設技術協会)

広報活動または作品の効果

1: Google Analytics による集計結果：

ここでは、Web サイト「土木ウォッチング」のページビュー（過去 6 か月間）の一覧を付属資料に示す。

2: 主要キーワード「土木構造物」の検索結果

検索結果を付属資料に示したが、多くの土木系サイトや Wikipedia を凌ぎ、1 位と 2 位に位置している。

3. facebook ページ‘Discover Doboku’のいいね！とフォロワー人数

応募時点にて、いいね！⇒7306 人、フォロワー：7425 人、となっている。

4. 当初の Phase1（Web サイトの開設とコンテンツ収集)、および Phase2（facebook ページによる情報発信）を活動の両輪とし Phase3（水平展開）に繋がったが、この Phase3 そのものも成果と考える。具体的には、イベントの実施、執筆、受託事業などである。

5. 土木施設を直球として伝えるため、土木界内外の多くの方々との繋がりができ、大きな成果として強調したい。(Phase1 と Phase2 を’空中戦’、 Phase3 を‘地上戦’と呼んでいる)。ただし、さらなる継続発展が不可欠であり、今後の課題に記した通りである。

☆付記：今後の課題

多くの土木施設(Infrastructure)の寿命（供用期間）は人間の寿命より長く、また、道路橋示方書の最新版では、設計供用期間 100 年を明記している。このため、今回の広報活動は、同様の超長期間の運用継続が最終的な課題である。このため、現行管理運営者から次世代への承継方法を模索し、100 年クラウドを関連サーバー会社と facebook Japan に打診していることを付記する。

| | |
|---|---|
| 付属資料の提出 | ☑有・□無（どちらかに印（✔）を付けてください。） |